

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475500479		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームいずみの杜 ユニット:ずんだ		
所在地	仙台市泉区松森字下町7番地の2		
自己評価作成日	令和2年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」のもと、ユニット目標である、「一人一人の想いを大切に」というスローガンを掲げて、ご利用者が安心して自分らしく過ごすことができるように日々関わらせていただいております。認知症という障がいがあっても、身体的なサポートが必要とされる場合も、合理的配慮をしながら、ご本人の想いと権利を大切にしたいと考えております。また、隣接しているいずみの杜診療所をはじめ、かかりつけの往診医など他職種と連携を図り、安心して過ごせる環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2001年開設の住宅街にある平屋造りのホームである。敷地内には、同法人の診療所、老人保健施設、通所介護事業所がある。法人理念のもとに各ユニットで目標を掲げ、利用者一人ひとりの想いを大切にしている。また、利用者の権利を守るため、不適切ケアについて集計しながら振り返りを行い、職員間で情報共有や検討を重ね、自己決定できる環境づくりに努めている。同法人の各事業所との連携により、医療体制や職員研修体制も整っている。「運営推進」、「地域・ボランティア」、「研修」、「給食」、「安全・衛生」、「感染・褥瘡関連」、「苦情・対応」の各委員会を設置し、全職員が役割を担い活動している。コロナ禍でも、少人数でのテーブル配置をするなど、感染予防を徹底しながら職員も一緒に食事をしている。外出や面会等が十分にできない状況だが、地域や家族との関係が継続でき、利用者のこれまでの生活環境が継続できるよう検討しながら進めていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームいずみの杜 ）「ユニット名 ずんだ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、職員一人ひとりが意識するよう働きかけています。日々の生活の中で認知症という障がいに向き合いつつ、尊厳を大切に「その人」と繋がりがながら、あたりまえの生活が送れるよう関わっています。	法人理念のもと、各ユニット目標「一人一人が元気に」「一人一人の想いを大切に」を掲げ、内部研修を実施し、職員間で共有している。職員は常に理念や目標を意識し、利用者の想いを大切に、言葉に耳を傾け声掛けするなど、関わり方に配慮した姿勢でケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ渦のため地域の行事や活動等にはなかなか参加できていない状況ですが、毎月1回実施している地域清掃には参加し、地域の皆様との交流を大切にしております。	町内会に加入している。現在、主な行事は中止となっているが、地域清掃は利用者と一緒に参加している。コロナ禍により、地域住民との交流の場は設けられなかったが、地域からの相談を受けたり、意見を検討し改善できるよう努めている。	コロナ禍の中ではあるが、相談・意見等の分析を継続し、地域へ発信していく仕組み作りを行い、さらに地域とのつながりが深められるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響に伴い、集まったの運営推進会議は開催できておりませんが、定期的に地域に赴き、事業所の取り組みや状況を説明するなどして理解していただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響に伴い、集まったの運営推進会議はなかなか開催できておりませんが、地域に事業所便りを定期的に配布し、サービス概要を知っていただいたり、関係者から意見等を集約したものを議事録にまとめ、配布するなどしてサービス向上に努めています。	コロナ禍のため、市民センター館長、地域包括職員、民生委員等メンバーにホームの状況について等資料を配布し報告を行い、意見や提案を聞いている。地域に対しホームの理解が深まるよう、事業所だよりを回覧したら等の提案があり実践した。感染予防を徹底しながら、家族面会や外出の取り組み状況についても情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や、その他報告が必要だと判断したものにしましては、市町村に速やかに連絡をして情報の共有に努めたりしながら、報連相を心掛けています。	都度、事故等の必要な報告や、相談をしている。コロナ禍の中で、もし発熱者が出た時の対応等も相談し、保健所とも連携している。生活保護課の来訪もあり、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のための委員会を開催しています。夜間防犯の為の施錠以外は鍵をかけず、外出や散歩を希望のご利用者は職員と一緒に楽しんでいます。夜間などベッドからの転落の危険性がある方には、センサー設置、こまめな訪室を心掛け、すぐにかけてられるように配慮しています。	コロナ禍の中、感染症予防に配慮しながら身体拘束適正化検討委員会を少人数で開催している。玄関施錠は夜間のみ、ベッドからの転倒防止のためセンサーを使用している。スピーチロックしない、車いすに足を乗せたままにしない等、会議で具体的に検討し、職員全員へ周知している。職員は不適切ケアについてグレーカードに記入し、提出されたケアを振り返り、話し合い検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会や各ユニットでのミーティングを通じて職員への周知と注意喚起に努めております。	グレーゾーン・不適切ケアの状況を把握し、事例検討を含む研修を実施している。職員全員が感想を記述することで虐待について認識を深めている。毎月のユニットミーティングで、検討・振り返りを行う機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用するご利用者もいることから、制度について学ぶ機会を設けております。また、診断時に併設するいずみの杜診療所より制度活用のアドバイスなども受けやすい環境となっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご本人やご家族に対して、十分な説明を行います。不明な点についてはその場での質問にお答えしながら、ご本人やご家族の不安を取り除けるよう努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、面会時や電話等で近況報告を行い、その中で意見や要望を伺うようにしています。また、集約した意見は、事業所ミーティングで話し合ったり、法人本部に相談して事業所運営に反映するよう努めております。	玄関に意見箱を設置している。コロナ禍のため面会制限もあるが、電話等も利用し家族へ利用者の状態や状況を説明し、意見を聞いている。例年と違う状況の中、家族と交流したり、意見・要望を聞き事業運営に反映する取り組みが十分にできなかった。	コロナ禍においても、家族の相談・意見等を十分に聴き取り例年のように把握できるよう、対面以外での交流ができる環境づくり等の工夫を期待する。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットミーティング、全体ミーティングで意見を集約し、職員や、法人に相談しながら事業所運営に反映できるよう努めております。	毎月のユニットミーティングや全体会議にて出た職員の意見を検討し反映している。年2回、個別面談を実施し、状況に応じ各自適宜面談も行い意見等を聞いている。法人本部や同法人の他事業所との連携体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自ら取り組んでいける制度があります。また、ご利用者と一緒に行えることを企画し、職員がやりがいを持って働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員との普段の会話や面談実施し、個人の力量や努力を把握するよう努めるとともに、法人内外の研修にも積極的に参加いただき、個人のスキルアップを図っております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で主催する、コロナウイルス対策の感染予防トレーニングや、応援派遣体制等、法人全体での取り組みを実施しており、交流を持ちながら相互協力体制を整える環境が整備できています。	法人内で感染症についての研修を行い、対策や実践に繋がるトレーニングを実施している。新型コロナウイルス感染症が広がる中、他事業所への支援・応援にも対応できるように『宮城県直接応援派遣制度』に登録し、法人全体での取り組む体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族には、入居申し込み時など、入居前に実際の生活する場を見学いただき、事業所の雰囲気を感じていただくなかで、ご要望や相談、質問にお答えします。安心してサービスのご利用を開始できるように管理者をはじめ、全職員が関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際の生活していく場である事業所でのサービス内容について、ご本人、ご家族には初期段階にて十分に説明行うとともに、その場での質問やご要望、不安な点等伺い、対話を重ねて安心していただけるよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人の状態、要望の把握を踏まえたアセスメントや、ユニット内や事業所のカンファレンス等を行いながら、必要なサービスのアドバイスを行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の想いや、日々の会話の中からやりたいことを汲み取り「その人と」という想いを常に持ちながら日々関わりの中でも意識しています。できないことに関してはその人の心身に配慮しながら一緒に行うなどして、共に安心して過ごせる関係づくりに努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響に伴い、面会の制限等も止むを得ずありましたが、ZOOMでの面会や窓越しでの面会を推奨し、予防対策に努めながら関係性を築けるように努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他事業所の協力を得ながら、馴染みの方とのZOOMでの面会や、お話しをする機会などを設けるようにしています。	感染症対策を徹底し、近くのスーパーへの買い物や馴染みの美容院へ行くなど、継続できるよう努めている。また、テレビ電話を利用した面会や手紙のやり取りも行っている。利用者の生活習慣や関係が例年のように継続ができる取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性について日頃の様子からも把握するよう心掛け、ホールの席のレイアウトの工夫を職員同士で話し合いながら実施するなどして、良好な関係を構築できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、手紙や事業所便りを送るなどして、事業所の近況や取組みを知っていただけるように、関係性を継続できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努め、ご家族や馴染みある方へお話を伺うなどして、できる限りこれまでの生活を継続できるように努めています。	職員は利用者との会話、表情や笑顔から理解を深め、利用者本位のケアを心がけている。家族からの聞き取りや、生活習慣、職歴などを確認、把握している。本人が懐かしい音楽が聴けるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、ケアマネージャーや医療ワーカーなどから話を伺い、サービス利用に至るまでの経過等の把握に努めています。できるだけ本人の馴染みの生活を継続できるように大切にしていることや習慣などもお聴きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録などを通じて、日々の心身の状態把握に努めています。また、「関わりの情報共有ノート」を作成し、日々のケアや関わり方を見直すツールとして活用しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からの聞き取りやご家族からの情報をもとにユニットの職員で話し合い、ケアカンファレンスを毎月実施して現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画作成において、理念の「ナラティブな関わり」を目指し、課題や評価は利用者の言葉で記入している。ケア会議には利用者も参加し、意見を聴いている。家族の意向や後見人、医療関係者からも意見を得て、利用者本位を意識して作成し、モニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や情報共有ノートをもとに、利用者一人一人の様子を把握するよう努めています。それをもとにケアカンファレンスを行い、必要時に介護計画書の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の様子や、ケアの実践を個人記録や申し送りノートに記載し情報共有を図っております。法人の各部署に相談しながら、介護サービス内にとどまらない関わりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回、ご利用者と地域清掃に参加したり、馴染みのデイケアに通うことで、地域との交流を楽しみながら過ごすことができます。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の診察を受けており、ご本人の様子や変化を、医師、ご家族にも適宜報告しています。法人内の診療所など、ご家族の対応が難しい時には職員が付き添いを行っております。	入居以前からのかかりつけ医の受診継続を尊重し、受診時は原則家族が付き添っている。利用者の状態を書面で家族に提供し、医師へ伝えている。家族対応が困難な場合には、職員が同行し、家族へわかりやすく説明・報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルやご本人の状態、様子を報告を行っております。変化があった際にはかかりつけ医に報告し、受診や指示を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急搬送が必要な際に提携している病院があります。また、ご家族に事前に搬送先の病院を伺い、入退院が必要になった場合には速やかに対応できるよう普段から関係づくりを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時のほか、重度化した場合には担当医師よりご家族に対して改めて説明いただきます。特に終末期にあたっては多職種で看取りチームを結成してご本人の支援にあたるよう看取りチームとご家族等とで方針を共有しながら実施します。	具体的な看取り指針を入居時に説明し、看取り開始時期には、再説明と意向確認を行っている。医師・看護師も含めチームを編成し家族と連携し取り組んでいる。看取り実績があり、コロナ禍の中でも感染対策を講じながら、家族面会も受け入れた。看取り後には振り返りを行い、研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会にて、急変時の対応を勉強しております。また、AEDの訓練や救急搬送の手順、緊急連絡網訓練なども定期的実施しております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や緊急連絡の訓練を行っています。また、災害時の備蓄品も備えて定期的にチェックするとともに、避難訓練の手順等も確認します。必要に応じて周辺事業所と連携し、普段から協力体制を築いています。	防災訓練は、夜間時の火災や水害を想定した避難訓練も行い、法人内での合同訓練を防災委員が中心になり実施している。緊急連絡網に基づき実際に連絡したり、周辺事業所への連絡調整等についても確認・見直しをしている。備蓄品は、ホーム内の倉庫に保管し防災委員が管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護やプライバシーについて、定期的に事業所でも勉強会を行い、日頃から礼儀や尊厳を大切にしたい関わりができるよう努めています。	法人理念「自立と共生の権利を尊ぶ」ことを実現するために、職員は個人情報やプライバシーマニュアルを基に研修を重ね、欠席者には、資料を回覧し周知している。プライバシーや羞恥心への配慮を徹底している。利用者の呼び名は、希望を聞いて呼んでいる。日常生活の様々な場面で、丁寧な関わりができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に聴く姿勢を常に持って関わるようにしております。説明しても難しい場合には実際に見て選んだりもらうなど工夫しながら自己決定できるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて生活できるよう努めています。日中、夜間の過ごし方も本人主体で過ごせるよう、職員は無理強いせず、ご本人に伺いながら関わるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性であればネイルやおしゃれ、男性であれば顔剃りなどを定期的に行い、一人ひとりが身だしなみを整え、おしゃれをあたりまえに楽しんでいただけるよう関わっています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたい物などを聞きながら献立を作成するよう努めております。一緒に調理や食事、片付けを行って食事の時間を楽しみにしてもらえよう日々関わっております。	利用者の希望を聞きながら、栄養士と連携し職員が献立を作成している。コロナ禍のため外食はできない状況だが、誕生日や行事に合わせ、出前をとったり季節感のある献立など工夫し楽しい食事になるよう努めている。感染予防を徹底しながら、職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量は毎回確認して記録に残し、不足している場合は補助食品や代替食を提供するなどして補うよう努めています。また、ご本人の状態が変化した際には法人内の医療職や、かかりつけの病院へ相談、報告をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の能力に応じた方法で口腔ケアを実施しております。また、定期的に訪問歯科を利用されている方もおり、日頃からの口腔清潔を意識して関わっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄サインを把握するよう職員間で共有しながらケアの実施をしております。また、ポータブルトイレやトイレでの誘導を行い、自力で排泄できるよう支援しています。	排泄検討委員会を中心に、排泄支援について検討している。利用者一人ひとりについての排泄サインや本人ができることを把握し自立支援に向け取り組んでいる。便秘予防に果物の摂取や散歩をするなど、状態に合わせて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等の薬だけに頼らず、食物繊維が多く含まれる食品や乳製品を献立に取り入れ、便秘予防に努めています。また、散歩するなど日頃から体を動かす機会を設けるようにも努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限りご本人の希望の時間で、無理強いをしないよう心掛けています。入浴を断られる方には清拭など代替案の提案を行うなどし、清潔の保持に努めています。	利用者の希望の時間に入浴できる。毎日入浴する人もいます。毎回、湯を交換することで、利用者の好みの温度設定や入浴剤を使用している。入浴への声掛けやタイミングなども工夫して、一人ひとり気持ちよく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも希望があればお部屋で休む時間を設けていただきます。入床は無理強いせず、夜間になかなか寝付けない方には、付き添いを行い、自室だけでなくホールでも好きな場所で安心して過ごせるよう関わっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から用法や薬の副作用についても確認し、それを申し送りノートに記載して情報共有を図るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や得意なことを把握し、ご本人が出来ること、楽しいと思えることを日々の生活の中で見出し、気分転換や役割を持って生活していただけるように支援しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為、なかなか外出は実施出来ませんが、気持ちが塞ぎこまないように、近隣への散歩や外出、日光浴等誘いし気分転換を図れるよう支援しております。	コロナ禍で以前より外出の機会は減少しているが、散歩や近所への買い物、行きつけの美容院などへの外出を感染予防を徹底しながら継続できるよう努めている。気分転換が図れるように、ドライブに出掛け、桜や紅葉を見るなど季節感を楽しむことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際に、必要額を所持し、希望に応じてお支払いいただく様にしておりませす。ご自分で支払いが困難な方でも、代わりに職員が支払いしている事を説明する等、お金を使うことに対する支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、ご自分で電話や手紙等のやり取りをされる方は少ないのですが、ご本人から頼まれた時は随時ご家族や大切な方に連絡を取るよう支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の共用部を常に清潔に保ち、ご利用者が毎日安心・安全に過ごせる環境作りを心掛けています。その日の気温や利用者様の状態をみながら室温調整にも配慮し、季節物や写真等思い出のある物を掲示することにより、居心地よく過ごせる空間づくりを行っております。	室内はコルクボードを活用して写真やホーム便り、利用者の作品などが掲示されている。温・湿度管理や換気などは職員が定期的に行っている。共用空間では、視覚や調理の音や香りなど、利用者の五感についても考慮し、心地よく快適に暮らせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を考慮し、個人がゆっくり過ごせる空間づくりや、ホール内での趣味活動、ご利用者同士でレクリエーションや談笑ができる温かみのある空間づくりを心掛けております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、個人毎に馴染みのある物や、その人が安心して過ごせるような設えづくり、レイアウトの工夫等、個々を大切にしながら自分らしく生活できる場がつかれるよう支援しています。	クローゼット、エアコン、ベッドが設置されている。和室タイプの居室やトイレ・洗面台が設置されている居室もある。これまでの生活の継続を意識して馴染みの家具など配置し、愛用品などや趣味の物を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋の入口には、表札を付けたり本人が選んだ暖簾を下げる事でお部屋が分かるよう工夫しております。また、ホールの段差解消の工事も行い転倒の危険性なく安心して過ごせる環境づくりができています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475500479		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホームいずみの杜 ユニット:くるみ		
所在地	仙台市泉区松森字下町7番地の2		
自己評価作成日	令和2年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」のもと、ご利用者が安心して自分らしく過ごすことができるように日々関わらせていただいております。認知症という障がいがあっても、身体的なサポートが必要とされる場合も、合理的配慮をしながら、ご本人の想いと権利を大切にしたいと考えております。また、隣接しているいずみの杜診療所をはじめ、かかりつけの往診医など他職種と連携を図り、安心して過ごせる環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2001年開設の住宅街にある平屋造りのホームである。敷地内には、同法人の診療所、老人保健施設、通所介護事業所がある。法人理念のもとに各ユニットで目標を掲げ、利用者一人ひとりの想いを大切にしている。また、利用者の権利を守るため、不適切ケアについて集計しながら振り返りを行い、職員間で情報共有や検討を重ね、自己決定できる環境づくりに努めている。同法人の各事業所との連携により、医療体制や職員研修体制も整っている。「運営推進」、「地域・ボランティア」、「研修」、「給食」、「安全・衛生」、「感染・褥瘡関連」、「苦情・対応」の各委員会を設置し、全職員が役割を担い活動している。コロナ禍でも、少人数でのテーブル配置をするなど、感染予防を徹底しながら職員も一緒に食事をしている。外出や面会等が十分にできない状況だが、地域や家族との関係が継続でき、利用者のこれまでの生活環境が継続できるよう検討しながら進めていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームいずみの杜 ）「ユニット名 くるみ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・社是のもと、職員一人ひとりが意識するよう働きかけています。日々の生活の中で認知症という障がいに向き合いつつ、尊厳を大切に「その人」と繋がりがあって、あたりまえの生活が送れるよう関わっています。	法人理念のもと、各ユニット目標「一人一人が元気に」「一人一人の想いを大切に」を掲げ、内部研修を実施し、職員間で共有している。職員は常に理念や目標を意識し、利用者の想いを大切に、言葉に耳を傾け声掛けするなど、関わり方に配慮した姿勢でケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ渦のため地域の行事や活動等にはなかなか参加できていない状況ですが、毎月1回実施している地域清掃には参加し、地域の皆様との交流を大切にしております。	町内会に加入している。現在、主な行事は中止となっているが、地域清掃は利用者と一緒に参加している。コロナ禍により、地域住民との交流の場は設けられなかったが、地域からの相談を受けたり、意見を検討し改善できるよう努めている。	コロナ禍の中ではあるが、相談・意見等の分析を継続し、地域へ発信していく仕組み作りを行い、さらに地域とのつながりが深められるよう期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響に伴い、集まっての運営推進会議は開催できておりませんが、定期的に地域に赴き、事業所の取り組みや状況を説明するなどして理解していただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響に伴い、集まっての運営推進会議はなかなか開催できておりませんが、地域に事業所便りを定期的に配布し、サービス概要を知っていただいたり、関係者から意見等を集約したものを議事録にまとめ、配布するなどしてサービス向上に努めています。	コロナ禍のため、市民センター館長、地域包括職員、民生委員等メンバーにホームの状況について等資料を配布し報告を行い、意見や提案を聞いている。地域に対しホームの理解が深まるよう、事業所だよりを回覧したら等の提案があり実践した。感染予防を徹底しながら、家族面会や外出の取り組み状況についても情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や、その他報告が必要だと判断したものにしましては、市町村に速やかに連絡をして情報の共有に努めたりしながら、報連相を心掛けています。	都度、事故等の必要な報告や、相談をしている。コロナ禍の中で、もし発熱者が出た時の対応等も相談し、保健所とも連携している。生活保護課の来訪もあり、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のための委員会を開催しています。夜間防犯の為の施錠以外は鍵をかけず、外出や散歩を希望のご利用者は職員と一緒に楽しんでいます。夜間などベッドからの転落の危険性がある方には、センサー設置、こまめな訪室を心掛け、すぐにかつけられるように配慮しています。	コロナ禍の中、感染症予防に配慮しながら身体拘束適正化検討委員会を少人数で開催している。玄関施錠は夜間のみ、ベッドからの転倒防止のためセンサーを使用している。スピーチロックしない、車いすに足を乗せたままにしない等、会議で具体的に検討し、職員全員へ周知している。職員は不適切ケアについてグレーカードに記入し、提出されたケアを振り返り、話し合い検討している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会や各ユニットでのミーティングを通じて職員への周知と注意喚起に努めております。	グレーゾーン・不適切ケアの状況を把握し、事例検討を含む研修を実施している。職員全員が感想を記述することで虐待について認識を深めている。毎月のユニットミーティングで、検討・振り返りを行う機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用するご利用者もいることから、制度について学ぶ機会を設けております。また、診断時に併設するいずみの杜診療所より制度活用のアドバイスなども受けやすい環境となっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご本人やご家族に対して、十分な説明を行います。不明な点についてはその場での質問にお答えしながら、ご本人やご家族の不安を取り除けるよう努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、面会時や電話等で近況報告を行い、その中で意見や要望を伺うようにしています。また、集約した意見は、事業所ミーティングで話し合ったり、法人本部に相談して事業所運営に反映するよう努めております。	玄関に意見箱を設置している。コロナ禍のため面会制限もあるが、電話等も利用し家族へ利用者の状態や状況を説明し、意見を聞いている。例年と違う状況の中、家族と交流したり、意見・要望を聞き事業運営に反映する取り組みが十分にできなかった。	コロナ禍においても、家族の相談・意見等を十分に聴き取り例年のように把握できるよう、対面以外での交流ができる環境づくり等の工夫を期待する。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットミーティング、全体ミーティングで意見を集約し、職員や、法人に相談しながら事業所運営に反映できるよう努めております。	毎月のユニットミーティングや全体会議にて出た職員の意見を検討し反映している。年2回、個別面談を実施し、状況に応じ各自適宜面談も行い意見等を聞いている。法人本部や同法人の他事業所との連携体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自ら取り組んでいける制度があります。また、ご利用者と一緒に行えることを企画し、職員がやりがいを持って働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員との普段の会話や面談実施し、個人の力量や努力を把握するよう努めるとともに、法人内外の研修にも積極的に参加いただき、個人のスキルアップを図っております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で主催する、コロナウイルス対策の感染予防トレーニングや、応援派遣体制等、法人全体での取り組みを実施しており、交流を持ちながら相互協力体制を整える環境が整備できています。	法人内で感染症についての研修を行い、対策や実践に繋がるトレーニングを実施している。新型コロナウイルス感染症が広がる中、他事業所への支援・応援にも対応できるように『宮城県直接応援派遣制度』に登録し、法人全体での取り組む体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族には、入居申し込み時など、入居前に実際の生活する場を見学いただき、事業所の雰囲気を感じていただくなかで、ご要望や相談、質問にお答えします。安心してサービスのご利用を開始できるように管理者をはじめ、全職員が関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際の生活していく場である事業所でのサービス内容について、ご本人、ご家族には初期段階にて十分に説明行うとともに、その場での質問やご要望、不安な点等伺い、対話を重ねて安心していただけるよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人の状態、要望の把握を踏まえたアセスメントや、ユニット内や事業所のカンファレンス等を行いながら、必要なサービスのアドバイスを行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の些細な会話の中でも、利用者様の思いや訴えを傾聴しながら、“その人と何ができるか”という考えを大切にしながら、双方にとって水平な関係が持てるよう努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響に伴い、面会の制限等も止むを得ずありましたが、ZOOMでの面会や窓越しでの面会を推奨し、予防対策に努めながら関係性を築けるよう努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為中々面会に来られていない状況ですが、遠方の方や希望される方にはZOOMを活用して関係が途切れないように支援しております。	感染症対策を徹底し、近くのスーパーへの買い物や馴染みの美容院へ行くなど、継続できるよう努めている。また、テレビ電話を利用した面会や手紙のやり取りも行っている。利用者の生活習慣や関係が例年のように継続ができる取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でのコミュニケーションが難しい場合には、職員が仲介しながら関わり、双方にとって良好な関係を保てるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し、医療的ニーズが高くなったことを理由にグループホームでの生活が難しくなったため退居となった方に関しても、老健等に面会に行くなどしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員やケアマネージャーは、ご本人はもちろん、ご家族にもその都度ご本人の希望や要望をお伺いし、これまでの生活を継続できるように努めております。たとえば食事等では、ご本人の嗜好品を伺い、食事そのものを楽しんでいただけるように配慮します。	職員は利用者との会話、表情や笑顔から理解を深め、利用者本位のケアを心がけている。家族からの聞き取りや、生活習慣、職歴などを確認、把握している。本人が懐かしい音楽が聴けるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、ケアマネージャーや医療ワーカーなどから話を伺い、サービス利用に至るまでの経過等の把握に努めています。できるだけ本人の馴染みの生活を継続できるように大切にしていることや週間などもお聴きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、ご本人の状態をこまめに観察し、医療職との連携を図りながら健康状態の把握に努めております。ご本人の残存機能を生かし、できることはご自分で行っていただきながら、意欲をもっていただけるような声掛けに努めます。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の想いを傾聴し、ご家族より情報提供いただきながら、その方に合った介護サービスを提供できるようにユニット毎に随時、ミーティングやカンファレンスを実施して介護計画を作成しています。	介護計画作成において、理念の「ナラティブな関わり」を目指し、課題や評価は利用者の言葉で記入している。ケア会議には利用者も参加し、意見を聴いている。家族の意向や後見人、医療関係者からも意見を得て、利用者本位を意識して作成し、モニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、状態変化や、気づき等をこまめに記録しながらスタッフ間で共有を行っております。必要時にはカンファレンスを開き、介護計画の変更を実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の様子や、ケアの実践を個人記録や申し送りノートに記載し情報共有を図っております。法人の各部署に相談しながら、介護サービス内にとどまらない関わりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍のため、ご利用者にマスク着用、手指消毒実施し感染対策を行ったうえで、近隣のスーパー等で買い物をしたり、散歩にいくなどしながら地域交流に努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医への受診を行い、ご本人様の状態変化が見られた際には都度、病院、医療へ相談、報告行い指示を仰ぎ受診行っています。なお、ご家族に対応いただくことで直接説明を受けていただく場合もあります。	入居以前からのかかりつけ医の受診継続を尊重し、受診時は原則家族が付き添っている。利用者の状態を書面で家族に提供し、医師へ伝えている。家族対応が困難な場合には、職員が同行し、家族へわかりやすく説明・報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルやご本人の状態、様子を報告を行っております。変化があった際にはかかりつけ医に報告し、受診や指示を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急搬送が必要な際に提携している病院があります。また、ご家族に事前に搬送先の病院を伺い、入退院が必要になった場合には速やかに対応できるよう普段から関係づくりを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時のほか、重度化した場合には担当医師よりご家族に対して改めて説明いただきます。特に終末期にあたっては多職種で看取りチームを結成してご本人の支援にあたれるよう看取りチームとご家族等とで方針を共有しながら実施します。	具体的な看取り指針を入居時に説明し、看取り開始時期には、再説明と意向確認を行っている。医師・看護師も含めチームを編成し家族と連携し取り組んでいる。看取り実績があり、コロナ禍の中でも感染対策を講じながら、家族面会も受け入れた。看取り後には振り返りを行い、研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内の勉強会にて、急変時の対応を勉強しております。また、AEDの訓練や救急搬送の手順、緊急連絡網訓練なども定期的に行っております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や緊急連絡の訓練を行っています。また、災害時の備蓄品も備えて定期的にチェックするとともに、避難訓練の手順等も確認します。必要に応じて周辺事業所と連携し、普段から協力体制を築いています。	防災訓練は、夜間時の火災や水害を想定した避難訓練も行い、法人内での合同訓練を防災委員が中心になり実施している。緊急連絡網に基づき実際に連絡したり、周辺事業所への連絡調整等についても確認・見直しをしている。備蓄品は、ホーム内の倉庫に保管し防災委員が管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、人としての尊厳を当たり前に考え、大切にできるよう努めています。個人に対しての礼儀と言葉使いに気を付けると同時に、プライバシーにも配慮しております。	法人理念「自立と共生の権利を尊ぶ」ことを実現するために、職員は個人情報やプライバシーマニュアルを基に研修を重ね、欠席者には、資料を回覧し周知している。プライバシーや羞恥心への配慮を徹底している。利用者の呼び名は、希望を聞いて呼んでいる。日常生活の様々な場面で、丁寧な関わりができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人の要望、希望や想いを傾聴します。自己決定ができる選択を増やし、ご本人が決めるということが増やしていけるよう配慮しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や、日中の過ごし方、起床、就寝等その人それぞれに合わせ対応しております。職員都合でご本人のペースを乱してしまうことのないよう、できるだけご本人の意思決定を尊重していけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や、入浴時等ご本人の着たい服装や好みを伺うなどしながら、ご本人が決めることのサポートをしています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好品を伺いながら、その時食べたいものを提供できるようにしております。調理や準備が難しい場合には、下膳や食器拭き等一緒に行います。	利用者の希望を聞きながら、栄養士と連携し職員が献立を作成している。コロナ禍のため外食はできない状況だが、誕生日や行事に合わせ、出前をとったり季節感のある献立など工夫し楽しい食事になるよう努めている。感染予防を徹底しながら、職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食確認行い、不足時には補食のお声がけをするなどしています。また、ご本人の状態が変化した際には法人内の医療職や、かかりつけの病院へ相談、報告をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕に関しては、個々の能力に応じて口腔ケアを行っております。また、定期的に訪問歯科の利用をされている方もおり、適宜口腔内の確認をしていただき清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尊厳に配慮しながら、日々の記録や状況を把握して排泄リズムを把握し、都度声掛けや、誘導行っております。自立に向け、トイレでの排泄が難しい方でも対応し、ご本人の想いをいつまでも大切にしよう心掛けております。	排泄検討委員会を中心に、排泄支援について検討している。利用者一人ひとりについての排泄サインや本人ができることを把握し自立支援に向け取り組んでいる。便秘予防に果物の摂取や散歩をするなど、状態に合わせて行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や、水分摂取状況を把握し、日中の適度な運動にて便秘予防に努めております。なかには、自力で排便が困難な方もいるのですが、薬に頼らず、医療職との連携を図りながら改善に努めていきます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎週二回以上の入浴は、楽しみにしていたように、音楽を掛けたり、入浴剤にて香りを楽しんでいただけるよう工夫をしております。また、ご本人の入浴希望に合わせ、苦痛に感じる事のないように体調や、状態把握しながら支援しています。	利用者の希望の時間に入浴できる。毎日入浴する人もいます。毎回、湯を交換することで、利用者の好みの温度設定や入浴剤を使用している。入浴への声掛けやタイミングなども工夫して、一人ひとり気持ちよく入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の様子から無理せず休んでいただくようお声がけております。夜間はなかなか寝付けない方もいらっしゃいますが、その際にはゆっくり話を傾聴したり、リラックスしていただけるようマッサージ等を行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に変更があった際には、情報共有ノートや連絡ノート、申し送りにて職員同士の情報共有行っております。服薬時にダブルチェックを実施し、安全に内服が出来るように対応行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や生活歴を把握し、得意な事、出来る事を見つけ、負担にならない程度にご本人様に役割を持って生活して頂ける様支援しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の為、中々外出の機会は設けられていませんが、ドライブや近隣の散歩、買い物や日光浴等お誘いし、気分転換を図れるよう支援しております。	コロナ禍で以前より外出の機会は減少しているが、散歩や近所への買い物、行きつけの美容院などへの外出を感染予防を徹底しながら継続できるよう努めている。気分転換が図れるように、ドライブに出掛け、桜や紅葉を見るなど季節感を楽しむことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に行った際には、必要額を所持し、希望に応じてお支払いいただくようにしています。ご自分で支払いが困難な方でも、その場で職員が代わりにお支払いをしている様子を説明するなど、お金を使うことに対する支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、ご自分で電話や手紙等のやり取りをされる方は少ないのですが、希望があった際には随時ご家族との連絡を職員が取り持ち、間に入りながら支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内でのそれぞれが好きな場所や、ご利用者同士で過ごせる場所、共用部を清潔に保ち、季節ごとの掲示物を展示して楽しめるよう配慮しております。また、換気・室温調整をこまめに行いながら、それぞれが安心して過ごせる環境づくりに努めています。	室内はコルクボードを活用して写真やホーム便り、利用者の作品などが掲示されている。温・湿度管理や換気などは職員が定期的に行っている。共用空間では、視覚や調理の音や香りなど、利用者の五感についても考慮し、心地よく快適に暮らせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりのパーソナルスペースを大切に、気の合う方同士で過ごせる空間、環境づくりに努めています。ご家族が面会に来られた時には、自室等でご本人との時間をゆっくり過ごしていただけるように配慮しております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、ご本人が大切にされているもの、馴染みのものやグループホーム内での思い出のものを飾り、いつでも安心して居心地よく過ごせるよう配慮しております。	クローゼット、エアコン、ベッドが設置されている。和室タイプの居室やトイレ・洗面台が設置されている居室もある。これまでの生活の継続を意識して馴染みの家具など配置し、愛用品などや趣味の物を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内を常に清潔に保ち、廊下や共用部に必要物品以外置かず、利用者様の歩行や作業等に支障が無いよう注意しております。		